

# 国際医療福祉大学大学院 作業療法学分野のご紹介

修士課程2年(取得学位:修士(保健医療学))

博士課程3年(取得学位:博士(保健医療学))

＜連絡先＞ 分野責任者 谷口敬道

Email: [taniguchi@iuhw.ac.jp](mailto:taniguchi@iuhw.ac.jp)

Tel: 0476-20-7701(呼出)



# 進学することで身に付けられるリテラシー

- 日常の問いや疑問を、研究可能な疑問にし、系統的な探索を通じて解決するための「論理的問題解決技術」
- 先行文献を系統的に検索し、必要な文献を見つけ、内容を批判的に正しく理解するための「文献検索・読解技術」
- 量的データを、統計解析ソフトウェア（SPSSやR等）を使用し、正しく処理し分析するための「量的データ処理技術」
- 質的データを、コーディングやソフトウェア（NvivoやSCAT等）によって、正しく処理し分析するための「質的データ処理技術」
- 成果を論理的かつ魅力的に報告するための「プレゼンテーション技術」



# 大学院生の入学目的と作業療法学分野の教育方針

- 学位の取得！
- 臨床の能力！
- 問題の解決！
- 研究の遂行！
- 講義の聴講！
- 学修の機会！
- 教員の指導！

興味のある活動  
(＝研究・議論)を通して

各自の探求心 真理の追求

論理的思考 科学性 思想と哲学

人間として正しく判断する力を  
身につけた専門職の育成

国際医療福祉大学

学部教育、大学院教育のポリシー

各自の臨床力・指導力の向上



# 作業療法学分野の教育目標

2022年度  
211校220課程

## 卒前教育

自ら学ぶ力を  
育て、作業療法  
の基本的な  
知識と技能を  
修得する

## 作業療法士

2022年度  
51校51課程

## 修士課程

多くの保健医療福祉専門職  
における作業療法・作業療法士の役割・  
位置を俯瞰で  
きる能力を培う

## 修士（保健医療学）

## 博士課程

専門領域の  
知識・技術をよ  
り深める

## 博士（保健医療学）

作業療法学の基礎から応用実践に至る  
各側面についての研究法の教授と実践



# 【修士課程】修了要件と履修方法

## ○ 修了要件

30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

## ○ 履修方法

| 授業科目<br>区分 | 最低単位数  |                 | 備考                           |
|------------|--------|-----------------|------------------------------|
|            | 必修     | 選択              |                              |
| 共通科目       | 2単位    | 12単位<br>以上      | 研究倫理特論(2単位・必修)               |
| 専門科目       | 16単位   |                 | 作業療法 <sup>の</sup> 動向(2単位・選択) |
|            |        |                 | 講義[修士]Ⅰ・Ⅱ                    |
|            |        |                 | 演習[修士]Ⅰ・Ⅱ                    |
|            |        | 研究指導[修士]Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |                              |
|            |        |                 | 計16単位(各2単位・必修)               |
| 合計         | 30単位以上 |                 |                              |



# 【博士課程】修了要件と履修方法

## ○ 修了要件

12単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

## ○ 履修方法

| 授業科目<br>区分 | 最低単位数  |    | 備考                                                  |
|------------|--------|----|-----------------------------------------------------|
|            | 必修     | 選択 |                                                     |
| 共通科目       | 2単位    | -  | 研究倫理特論(2単位・必修)                                      |
| 専門科目       | 10単位   |    | 講義[博士]<br>演習[博士]<br>研究指導[博士]Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ<br>計10単位(各2単位・必修) |
| 合計         | 12単位以上 |    |                                                     |



# 【修士課程】年間予定

## 1年次

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

前期

後期

◆大学研究院報告会

■分野研究進捗報告会■



## 2年次

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

前期

後期

◆大学院研究報告会

■分野研究進捗報告会■



論文審査



# 【博士課程】年間予定



# 選択科目(必修)の講義・演習・研究指導

## 【修士課程】

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 講義   | 「研究倫理特論(e-learning)(1年前期)」の履修 |
|      | 「講義Ⅰ(1年前期)」の履修                |
|      | 「講義Ⅱ(1年後期)」の履修                |
| 演習   | 分野研究進捗報告会への出席(年4回)            |
| 研究指導 | 指導教員等からの研究指導(随時)              |

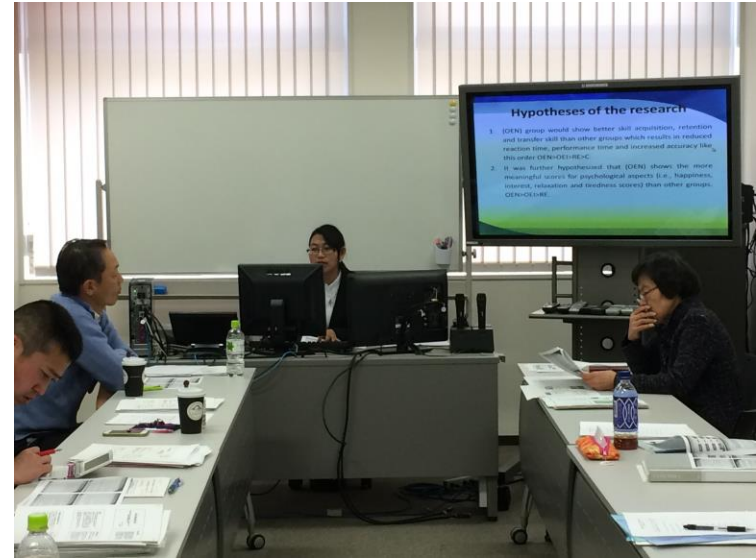
## 【博士課程】

|      |                               |
|------|-------------------------------|
| 講義   | 「研究倫理特論(e-learning)(1年前期)」の履修 |
|      | 「講義(1年前期)」の履修                 |
| 演習   | 「演習(1年後期)」の履修                 |
|      | 分野研究進捗報告会への出席(年4回)            |
| 研究指導 | 指導教員等からの研究指導(随時)              |



# 研究指導

各自の研究進捗に合わせて、対面・オンライン、個別・集団での研究指導を随時実施し、論文作成



# (参考)修士課程院生(作業活動支援学領域)の履修

## 1年次 前期

集中講義  
月 6時限  
水 6-7時限  
e-learning  
進捗報告会  
研究指導

研究倫理特論【必2】  
支援学講義Ⅰ【必2】  
分析学講義Ⅰ【選2】  
選択科目【選2】  
出席  
支援学研究指導Ⅰ【必2】

## 2年次 前期

月 6時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
  
研究指導

(支援学)  
(分析学)  
支援学演習Ⅱ【必2】  
分析学演習Ⅱ【選2】  
支援学研究指導Ⅲ【必2】

## 1年次 後期

月 6時限  
7時限  
水 6-7時限  
e-learning  
進捗報告会  
  
研究指導

支援学講義Ⅱ【必2】  
作業療法の動向【選2】  
分析学講義Ⅱ【選2】  
選択科目【選2】  
支援学演習Ⅰ【必2】  
分析学演習Ⅰ【選2】  
支援学研究指導Ⅱ【必2】

## 2年次 後期

月 6時限  
7時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

(支援学)  
(作業療法の動向)  
(分析学)  
出席  
支援学研究指導Ⅳ【必2】

進捗報告会 05/20、09/09、10/21、01/20土

計【必修18単位】【選択14単位】



# (参考)博士課程院生(作業活動支援学領域)の履修

## 1年次 前期

集中講義  
月 6時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

研究倫理特論【必2】  
支援学講義【必2】  
分析学講義【選2】  
出席  
随時

## 2年次 後期

月 6時限  
7時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

(支援学)  
(作業療法の動向)  
(分析学)  
出席  
支援学研究指導Ⅱ【必2】

## 1年次 後期

月 6時限  
7時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

支援学演習【必2】  
(作業療法の動向)  
分析学演習【選2】  
出席  
随時

## 3年次 前期

月 6時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

(支援学)  
(分析学)  
出席  
支援学研究指導Ⅲ【必2】

## 2年次 前期

月 6時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

(支援学)  
(分析学)  
出席  
支援学研究指導Ⅰ【必2】

## 3年次 後期

月 6時限  
7時限  
水 6-7時限  
進捗報告会  
研究指導

(支援学)  
(作業療法の動向)  
(分析学)  
出席  
随時



◎ お二人の作業療法士が基盤を作った！

杉原素子先生

(1999年度～2022年度)

鎌倉矩子先生

(2001年度～2007年度)



## ◎ 勤務をしながらの学位取得が可能！

### 〈授業時限での講義〉

| 時限  | 時間帯         |
|-----|-------------|
| 1時限 | 9:00～10:30  |
| 2時限 | 10:40～12:10 |
| 3時限 | 13:00～14:30 |
| 4時限 | 14:40～16:10 |
| 5時限 | 16:20～17:50 |
| 6時限 | 18:00～19:30 |
| 7時限 | 19:45～21:15 |

**必修科目：6-7時限開講**

### 〈オンラインでの講義〉

必修科目の講義は、コロナウィルス感染症の影響で授業時限にオンラインで行っています。院生は自宅や職場などから講義受講可能！

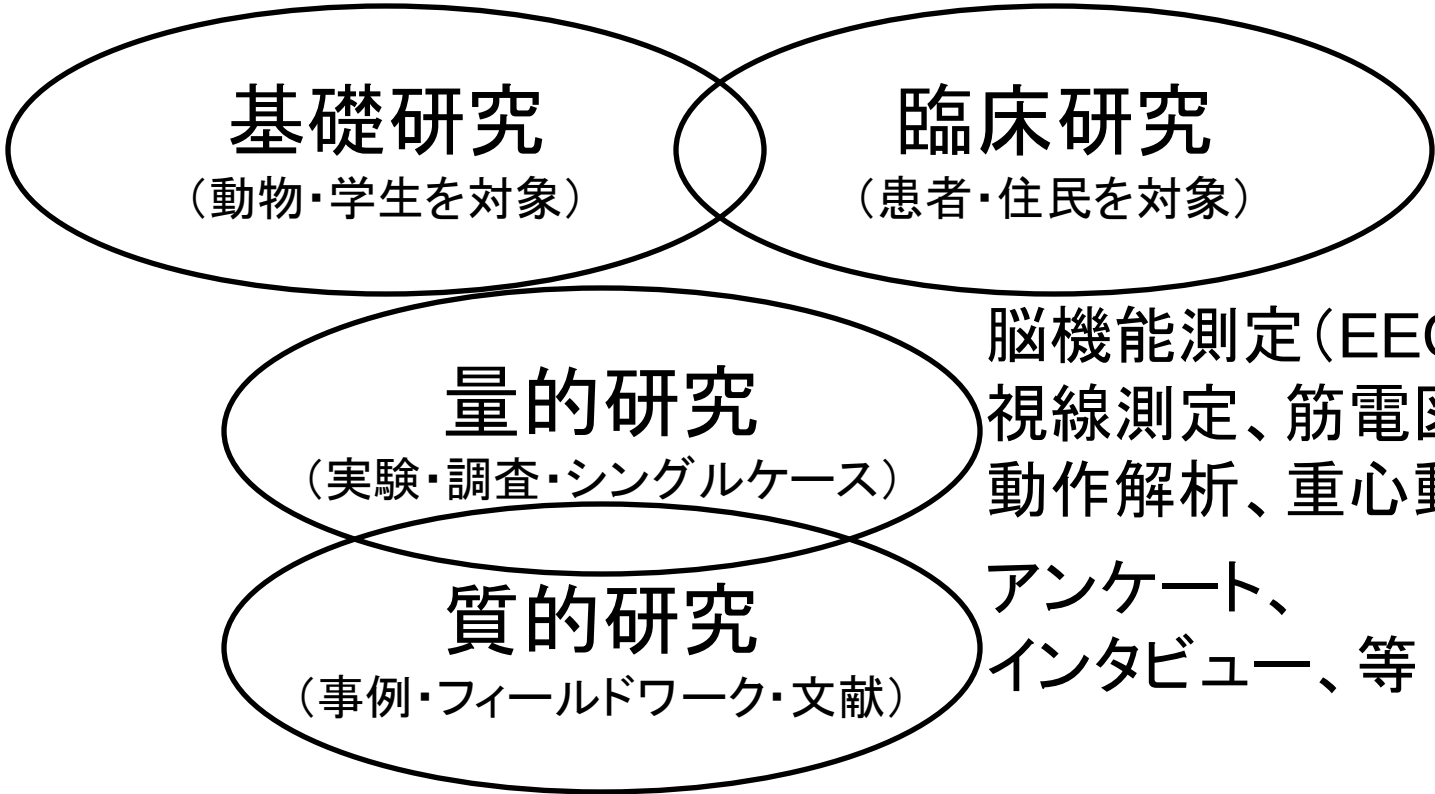
### 〈eラーニングシステムでの講義〉

eラーニングシステムを用いている講義（選択科目）では、自宅や職場などで、授業時限以外にインターネットを利用し講義受講、修了に必要な単位取得可！

◎ 基礎から臨床まで研究環境の充実！

基礎医学研究センター  
本学学生・院生

臨床医学研究センター  
本学附属病院  
院生職場  
地域住民



脳機能測定 (EEG、fNIRS)  
視線測定、筋電図、  
動作解析、重心動揺、等  
アンケート、  
インタビュー、等

これまでの学位論文のテーマについては、「学位論文一覧」をご確認ください。

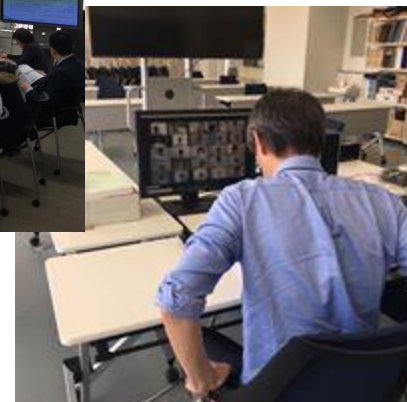
## ◎ 院生・教員が一堂に会する機会！

### 【2023年度作業療法学分野研究進捗報告会】

日程： 5月20日(土)  
9月9日(土)  
11月5日(土)  
1月21日(土)

参加：院生・教員

内容：研究進捗報告・討議



## 聴講可能です！

聴講を希望される方は、下記まで連絡をください。

分野責任者：谷口敬道(taniguchi@iuhw.ac.jp)

## ◎ 大きく2つの領域で展開！

### 【作業活動支援学領域】

作業活動を提供する意味を考察し、作業療法の原理を探ります。また、作業活動適用に関する対象・種類・動機等について考察します。

○月曜6時限(18時00分～19時30分)

### 【作業活動分析学領域】

人の日常生活や社会生活の基盤となる作業活動とその遂行を科学的に捉える方法を通し、作業療法の実践に寄与する研究を行います。

○水曜曜6-7時限(18時00分～21時00分)

## ◎ 臨床1年目から多くの院生が在籍！

| 領域        | M1 | M2 | D1 | D2 | D3 |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 作業活動支援学領域 | 2  | 2  | 1  | 0  | 1  |
| 作業活動分析学領域 | 8  | 5  | 0  | 0  | 5  |

- ・臨床経験1年目から幅広い年代の作業療法士の在籍
- ・保健医療福祉施設に所属する臨床家の在籍
- ・養成校に所属する教員の在籍
- ・留学生の在籍

M1/2: 修士課程1/2年生、D1/2/3: 博士課程1/2/3年生

## ◎ 多くの研究指導教員が所属！

### 【作業活動支援学領域】

- ◎ 小賀野操 （大田原） 修士3名指導中
- ◎ 北島栄二 （小田原）
- ◎ 河野真 （小田原） 博士2名指導中
- ◎ 藤本幹 （大田原）

### 【作業活動分析学領域】

- ◎ 後藤純信 （福岡・大川） 修士1名、博士2名指導中
- ◎ 谷口敬道 （成田） 修士10名、博士1名指導中
- ◎ 日田勝子 （大川） 修士1名、博士2名指導中

上記は主な指導教授となります。

各教員の詳細はホームページをご確認ください。

必要に応じて分野内外の専門知識をもった、教員から指導を受けることが可能。



## ◎ 多種多様な科目を受講できる！

### 【研究・教育の方法】

- ・修士・博士課程のための研究法入門
- ・症例に基づく病理学
- ・アンケート調査・インタビュー調査、フィールドワーク入門
- ・統計学
- ・質的研究法概論・各論
- ・英語論文執筆演習
- ・教育学概論

※養成校の教員になるための要件を満たした科目

### 【人間・集団】

- ・精神神経障害学
- ・高次脳機能障害学
- ・疫学概論

### 【保健・医療・福祉】

- ・精神保健・社会精神医学論
- ・災害医療論
- ・がん医療総論・各論
- ・生活支援機器概論

### 【医療・福祉の経営と管理】

- ・医療経済学概論
- ・医療管理学概論
- ・医療福祉連携論

### 【情報】

- ・医療情報システム概論
- ・医療福祉面接記録法

### 【特別講座】

- ・医療福祉アントレプレナーシップ論
- ・保健医療福祉研究のための日本語基礎

等

共通科目の一部となります。  
上記以外に他分野の科目もあります。



◎ 研究成果が作業療法学の発展に貢献！

524

作業療法 38巻5号・2019年10月

研究論文

過活動型せん妄を伴う急性期脳神経疾患患者に対する  
排泄行為への介入効果

坂下 竜也<sup>1,2</sup> 原 麻理子<sup>3</sup> 原田 健三<sup>3</sup>

要旨：急性期脳神経疾患に生じる過活動型せん妄の一原因として、オムツ内への排泄といった排泄方法の変更がある。今回、過活動型せん妄を伴う急性期脳神経疾患患者26名に対し、トイレへの排泄指導を行い、その前後でのせん妄の有無と、せん妄の持続期間との関連性を調査した。その結果、排泄指導後に、せん妄は有意に改善し即時効果も認められた。しかし、せん妄は再発し改善は一時的であった。また早期に排泄指導を行うと、せん妄の持続期間は、短くなる傾向にあった。排泄行為への介入は、過活動型せん妄の改善に寄与する可能性が示唆された。

作業療法 38：524～531, 2019

Key Words：急性期、脳血管障害、泌尿器、せん妄、排泄

はじめに

急性期における脳血管障害や頭部外傷などの脳神経疾患は、四肢・体幹の感覚や運動障害、並びに心理や精神機能の障害など様々な複雑な症状を併発する。その一つが、せん妄である。DSM-5<sup>1)</sup>によると、せん妄は、「重要な神経認知障害の一つであり、注意の方向付け・集中・認知の障害が短期間（数時間～数日）のうちに発現することを特徴とし、医学的疾患、物質中毒と鑑別、事象への基盤などによる生理的生理的影響の結果として、または不特定多数の要因から生じる」と定義付けられている。

せん妄は、症状により、不穏・興奮・錯乱や幻覚などの症状を示す過活動型、注意の低下・不活動・不適切な会話を示す低活動型、両者の特徴を示す混合型と、大きく三つに分類され<sup>2)</sup>、脳神経疾患患者に生じるせん妄は、過活動型が最も多いとの報告がある<sup>3)</sup>。また、せん妄の持続は、入院期間の延長や死亡率を高める危険因子とも報告されており<sup>4)</sup>、早期の改善が求められる。日本集中治療医学会によると、「せん妄の発生頻度や期間を減少するために、早期からの積極的な薬物や四肢体幹の運動を中心としたリハビリテーション介入を推奨する」とあり、リハビリテーション専門職の関与が必要不可欠であると述べている<sup>5)</sup>。しかし、実際の臨床場面では、過活動型せん妄を伴うと、安全上の管理から身体拘束や薬物による行動制限が行われ、座位・立位などの離床活動やベッド上での整容・更衣といったADL訓練など、リハビリテーションの積極的な介入の難しさに直面する。

このような急性期脳神経疾患患者に、せん妄が生じる要因の一つとして、排泄行為の変更が影響しているとの報告がある<sup>6)</sup>。若松ら<sup>7)</sup>は、「排泄は人が生きていく上で欠かせない行為であり、個人的な行為で誰もが

314

作業療法 38巻3号・2019年6月

研究論文

長期入院統合失調症者の退院意向と個人因子  
—Defeatist Beliefsと陰性症状の検討—

渡部 誠一<sup>1,2</sup> 杉原 素子<sup>3</sup>

要旨：我が国の調査では、長期入院統合失調症患者のうち20～50%は退院意向を示さないといわれ、厚生労働省は「退院に向けた意識の喚起」を強調している。本研究では、長期入院統合失調症患者の退院意向に関連する個人因子を明らかにする目的で、精神科病院に1年以上入院している統合失調症患者50名を対象に、退院意向質問紙、若松への肯定的自己評価であるDefeatist Beliefsおよび陰性症状の横断的に評価した。その結果、Defeatist Beliefsは退院を示さない群において有意に重症度（ $p<0.001$ ）、交絡因子を含めても有意な関連が認められた（ $p<0.01$ ）。本結果により、退院意向を示さない統合失調症患者の退院への意識喚起には、心理社会的介入の重要性が示唆された。

作業療法 38：314～324, 2019

Key Words：長期入院、統合失調症、心理・社会的因子、精神症状、退院

はじめに

我が国では精神科病床数が世界的に高い水準にあり、その遅れは「失われた40年」とも称される<sup>1)</sup>。このような我が国独自の慢性的な課題を取り返すべく、平成16（2004）年に、精神保健福祉法改正により精神医療福祉改革ビジョンが示され、精神科病院入院患者約7万人の地域移行施策が推進された<sup>2)</sup>。

厚生労働省（以下、厚労省）の患者調査によると、

450

作業療法 39巻4号・2020年8月

原著論文

長期入院統合失調症者の  
対人関係機能に陰性症状が与える影響  
～対人関係機能の障害と陰性症状の重症度に関する探索的研究～

岡田 宏基<sup>1</sup> 平野 大輔<sup>2</sup> 谷口 敬道<sup>3</sup>

要旨：長期入院者を精神障害者社会生活評価尺度（LASMS）で評価した対人関係機能の障害とBrief Negative Symptom Scale（BNSS）で評価した陰性症状の重症度との関連を検討し、障害の有無を判断するBNSS得点カットオフ値を探索的に算出した。対象者は1年以上精神科病院に入院する統合失調症患者で、分析には順序ロジスティック回帰分析、ROC曲線が用いられた。結果、分析対象は53名となりBNSSと関連が認められカットオフ値が20以下であった項目は自主的な付き合ひ、30～40の範囲内にあった項目は自発性、友人付き合い、40～50にあった項目は主張、応答、発話の明確さであった。障害の有無を判断する陰性症状の重症度は、各対人関係によって異なる可能性がある。

作業療法 39：450～458, 2020

Key Words：統合失調症、対人関係、（陰性）症状、長期入院

青 量

社会機能障害者、長期入院統合失調症患者（以下、長期入院者）の退院を阻害する要因の一つである<sup>1)</sup>。食事や保護などのセルフケアを含む日常生活機能や他者との安定的な関係を保つための対人関係機能などの障害である社会機能障害は、地域生活を困難にする。また、これらの障害は一年以上の長期入院につながる可能性がある<sup>2)</sup>。

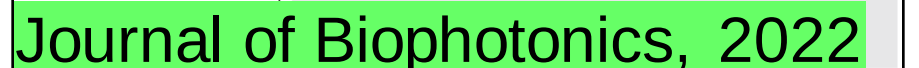
2018年12月13日受付、2019年12月10日受理  
The influence of negative symptoms on interpersonal relationship dysfunction among long-term hospitalized patients with schizophrenia: An exploratory study on interpersonal relationship functional disorder and severity of negative symptoms

<sup>1)</sup> 京都府立総合医療センター  
Hiroki Okada, OTR, PhD: Medical Corporation Nasukong Hospital  
<sup>2)</sup> 京都府立総合医療センター  
Daisuke Hirano, OTR, PhD: Department of Occupational Therapy, School of Health Science at Narita, International University of Health and Welfare  
<sup>3)</sup> 京都府立総合医療センター  
Takemichi Taniguchi, OTR, PhD: Department of Occupational Therapy, School of Health Science at Narita, International University of Health and Welfare

著者：岡田宏基（e-mail: 1753015@jshw.ac.jp）

6289-4528/20/V500 論文JCOPY

Presented by MedicaOnline



# 博士課程修了生(臨床15年目入学)からのメッセージ

## ■進学理由

博士課程には修士課程で新たに生まれた疑問を解決したいと考えて進学しました。また、博士課程で求められる新規性、つまり研究として世界で明らかにになっていない部分を自身が証明することに挑戦するつもりで進みました。

## ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

本学の魅力は、様々な分野の作業療法士が集い、院生として自らが興味のある分野や事象について探求することを作業療法学分野の先生方だけではなく、他分野の先生方も励行し、惜しみなく指導してくれる点であると思います。そのような環境の中で、先生や院生間で議論をし、自分の臨床、研究、論文に向き合い、自分の生活にも向き合い、研究だけではなく物事を俯瞰した見方をできるようになる機会が得られることも大きな魅力だと思います。



# 博士課程修了生(臨床12年目入学)からのメッセージ

## ■進学理由

他大学院の修士課程において、精神保健福祉領域のピアサポートに関する研究に取り組みました。その研究によって新たな課題が明らかになり、博士課程に進学し、研究を継続したいと強く思っていました。学生としての最後は母校でという気持ちがあり、ご縁を頂けることになりました。研究をするにあたり、幅広い見識を備えた先生方の存在や、働きながら通学しやすい環境も決め手でした。

## ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

大学院を目指す皆様の中には、仕事やご家庭を持たれている方々が少なくないのではないのでしょうか。本学は夜間の授業が主体であり、オンライン環境も整備されています。また、自宅のパソコンからの講義受講も可能であり、文献検索もお手元のスマートフォンやパソコンから行えます。そして、共に学ぶ院生の数も多く、互いに研鑽し合える環境が魅力です。



# 修士課程修了生(臨床3年目入学)からのメッセージ

## ■進学理由

当時、大学病院での臨床3年目であり、経験を積む中で持った疑問や主観的な印象を、研究という形にして検証する方法を学びたかったです。職場が大学関連施設ということもあり、上司の理解もあったため、挑戦してみたいと思い、進学しました。

## ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

働きながら大学院に通う上で指導教員の理解がありました。指導日をこちら側に合わせてくれることや、業務を優先させてくれること、オンラインを使用して研究の進捗状況の報告を業務後の遅い時間等にも設定してくれること等、多くの先生方が院生の都合に合わせて指導をして頂けました。そのため、業務を優先しながらも大学院での勉学を継続することができます。



# 修士課程修了生(臨床1年目入学)からのメッセージ

## ■進学理由

関連施設への入職がきっかけであり、多くの職場の先輩も大学院に進学していることで、新社会人として病院勤務しながらも大学院に通うことに対しての周囲の理解が得られる状況であったことが一番の理由になります。また、自分のキャリアアップのためを考えていました。大学院での学びは将来、作業療法士としての知識や考えがより一層深まると思ったからです。

## ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

本学の魅力は、病院勤務をしながらも大学院に進学でき、両立させながら研究も実施できるところだと思います。大学院での研究はとても取り組み難いイメージがあるかと思いますが、自分の興味のあることや疑問に思うことなど身近に感じることから研究を進めていくため、その分野での知識が自然と身に付きます。自分の知りたいことが深められる良い機会であって、研究の面白さを感じることができます。

